

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0019

平成31年度行政事業レビューシート (金融庁)

事業名	新興市場国に対する技術協力に必要な経費			担当部局庁	総合政策局	作成責任者	
事業開始年度	平成14年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課国際室	中川 彩子	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定) 「日本再興戦略」改訂2014(平成26年6月24日閣議決定) 「日本再興戦略」改訂2015(平成27年6月30日閣議決定) 「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定) 「未来投資戦略2017」(平成29年6月9日閣議決定) 「未来投資戦略2018」(平成30年6月15日閣議決定)		
主要政策・施策	ODA			主要経費	経済協力		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国の金融危機の経験に基づいた教訓の共有や金融規制・監督制度等に関する技術協力を通じ、新興市場国の金融当局者の能力向上及び人材育成を図ること。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○新興市場国の金融当局者を対象とした研修事業の実施【事業①】 ○各国国際機関(OECD、IAIS、IOSCO)の新興市場国向け技術支援のための拠出金の拠出【事業②】						
実施方法	委託・請負、負担						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
		計	124	131	137	243	184
	執行額	121	128	131			
	執行率(%)	98%	98%	96%			
当初予算+補正予算に対する 執行額の割合(%)	98%	98%	96%				
平成31-32年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由			
	政府開発援助経済協力開発機構等拠出金	149	170	・国際開発金融機関協力経費の要求増 (政府開発援助経済協力開発機構等拠出金: +21百万円)			
	政府開発援助諸謝金	11	14	・新興市場国等を対象にした金融行政研修に必要な経費の要求増 (政府開発援助諸謝金: +3百万円)			
	政府開発援助金融・世界経済首脳会合開催庁費	78	0				
	政府開発援助金融・世界経済首脳会合開催職員旅費	5	0				
計	243	184					

	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と28～30年度の達成状況・実績						
	定量的な成果目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	<p>【事業①】 研修の目的は、新興市場国の金融当局者の能力向上を図るために我が国の経験を共有することで、新興市場国における日本企業や日系金融機関の事業展開の促進及び国際金融システムの向上を図るものであり、年度単位でその成果を定量的に把握することは困難。</p> <p>【事業②】 拠出金の目的については、フォーラムの開催等により、新興市場国の政策担当者の行政能力強化を図るものであり、年度単位でその成果を定量的に把握することは困難。</p>			<p>【事業①】国際機関の活動や金融取引のグローバル化が進展する中、新興市場国の金融システムの健全な発展は、我が国を含む国際金融システムの安定性の向上において重要であることから、我が国の経験の共有を通じ、新興市場国の金融当局者の能力向上に取り組むという定性的な目標を掲げ、継続的に研修を開催してきている。</p> <p>30年度は、30年8月に「銀行監督者セミナー」、同年11月に「保険監督者セミナー」をそれぞれ東京で開催した。 また、研修終了後のアンケート調査においても「経済と規制当局/監督局の機能に関する適切な情報を得るためのプラットフォームとして機能した」、「本国に持ち帰って、同僚や上司にも情報を共有したい」といった好評価を得ており、新興市場国の金融当局者の能力向上に資する重要な機会となった。今後も引き続き、研修生から金融庁側へ示された要望事項(研修中及び研修後アンケート)の内容も吟味しつつ、次回研修に向けてプログラムの充実等を図り、引き続き新興市場国の金融当局者の能力向上に努める。</p> <p>【事業②】アジア諸国を中心とする新興市場国を対象としたフォーラムの開催等により、参加した政策担当者らの行政能力を強化するという目標を掲げ、経済協力開発機構等に資金を拠出し、フォーラムやセミナー等を継続的に開催している。</p>					
定量的な成果目標の設定が困難な場合	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 31年度	目標最終年度 -年度
		【事業①】 研修の参加者について、概ね35名程度の参加者を得る。	研修の実際の参加者数	実績	人	34	31	13	-	-
				目標値	人	35	35	35	35	-
	達成度			%	97	88	37	-	-	
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 31年度	目標最終年度 -年度
		【事業②】 4段階評価で、参加者の評価が上位2つになっている割合(フォーラムを通じた平均)を90%以上とする	4段階評価で、参加者の評価が上位2つになっている割合(フォーラムを通じた平均)	実績	%	85	90	82	-	-
				目標値	%	90	90	90	-	-
	達成度			%	94	100	91	-	-	
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度
【事業②】 (参考指標) OECDにおける日本人職員数			実績	人	72	78	81	-	-	
			目標値	人	-	-	-	-	-	
	達成度		%	-	-	-	-	-		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	32年度活動見込
	【事業①】 研修開催回数	活動実績	開催回数	開催回数	3	3	2	-	-	
		当初見込み	開催回数	開催回数	3	3	3	3	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	32年度活動見込
	【事業②】 経済協力開発機構への拠出金を元にした新興市場国向けフォーラム等の開催回数	活動実績	件	件	8	10	11	-	-	
		当初見込み	件	件	8	8	12	11	-	
単位当たりコスト	算出根拠				単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	【事業①】 研修事業の支出額/研修開催回数	単位当たりコスト	百万円	百万円	4	4	3	-		
		計算式	支出額(百万円)/開催回数			12/3	12/3	6/2	-	
単位当たりコスト	算出根拠				単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	【事業②】 各年度拠出金額/フォーラム等の開催回数	単位当たりコスト	百万円	百万円	7	7	7	-		
		計算式	百万円/開催回数			59/8	68/10	77/11	-	

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策				
	施策	横断的施策－3 その他の横断的施策			
	測定指標	定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)
		[主要] 国際的な当局間のネットワーク・協力の強化	各国との具体的な取組みを更に推進する等、相手国当局との規制・監督等の協力枠組みを強化	30年度	アジア新興国等に対する技術支援の強化等を図る。
					施策の進捗状況(実績)
				中国とは、日中首脳会談、日中財務対話の際に日中金融協力の更なる協力強化に合意。首脳会談の際には金融庁長官と中国証券監会主席との間で日中証券市場協力に関する覚書を締結。 ミャンマーでは、保険市場・資本市場活性化支援計画及び今後の支援策をまとめた「プログレスレポート」に基づき、技術協力等を実施。また、インドネシア、ブラジル、タイ、ベトナムの当局等にも、セミナーや研修の実施など、深度ある金融技術協力を実施。	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係					
アジア諸国を中心とする新興市場国を対象としたセミナー等を開催し、金融当局者の能力向上や人材育成に取り組むことで、政策目標の達成に寄与している。					

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は新興市場国の金融・資本市場の整備を通じ、日本を含む国際金融システムの安定性の向上及び、これらの国との連携強化、ひいては、新興市場国における日本企業や金融機関の事業展開に資することを目的としたものであり、国民や社会のニーズを反映していると考ええる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	新興市場国の金融当局者の能力向上及び人材育成に取り組むためには、日本の金融制度に係る知見の共有等、当局が主体となり実施する必要があると考ええる。また、広範な地域に技術支援をする上では、国際機関に委託する方が、有効かつ効率的な支援を実施することができると考ええる。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、「日本再興戦略」、「日本再興戦略改訂2014」、「日本再興戦略改訂2015」、「日本再興戦略2016」、「未来投資戦略2017」及び「未来投資戦略2018」においても記載されている優先度の高い事業であると考ええる。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	○ 有 無	当庁で実施する研修事業については、一定の公告期間等を確保しているものの、一部の案件について、一者応札となった。引き続き、一者応札とならないよう、公告期間の確保等を十分に行っていくこととする。 また、委託先の国際機関は広範な地域へ有効かつ効率的に技術支援をする上で適切な支出先である。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国民全体の利益に資すると考えられるため、国費負担は妥当と考える。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	当庁で実施する研修事業について、一般競争入札の実施により、必要最低限のコストに抑えており、コスト等の水準は妥当と考える。 委託先の国際機関での事業実施内容や費用については国際機関からの協議を経て決定されており、単位当たりコストは妥当な水準となっていると考える。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	新興市場国の金融行政担当者を対象とした研修事業及び各国際機関への拠出の目的に照らし、必要最低限の支出を行っており、真に必要なものに限定されていると考える。

	<p>不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)</p>	○	<p>事業①について、G20財務大臣・中央銀行総裁会議の関連会合を当庁が開催することに伴い、開催準備に注力するため研修の実施を一部見送ったことにより、全体の研修参加者数が例年に比べ減少し、不用率が大きくなった。</p>
	<p>繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)</p>	-	-
	<p>その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。</p>	○	<p>当庁で実施する研修事業について、年度当初に金融庁HPで公表する「契約発注の見通し」に事前登録するなど、応札者が増えるよう工夫を行っていると考え。</p>

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	<p>事業①について、G20財務大臣・中央銀行総裁会議の関連会合を当庁が開催することに伴い、開催準備に注力するため研修の実施を一部見送ったことにより全体の研修参加者数が例年より減少したが、実施した研修については概ね計画に基づき実施されていること、また、例年同様幅広い国・地域から研修生が参加していることから、成果実績は成果目標に見合ったものであると考える。</p> <p>事業②について、国際機関への委託分についても計画に基づき実施されており、成果実績は成果目標に見合ったものであると考える。</p>				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	<p>事業①について新興市場国の金融当局者を我が国に招き、研修(各セクター別セミナー)を実施した。上記のとおり一部開催を見送ったことにより全体の研修参加者数が例年より減少したものの、実施した研修については概ね計画に基づき実施されていること、また、例年同様幅広い国・地域から研修生が参加していることから、活動実績は見込みに見合ったものであると考える。</p> <p>事業②について、国際機関への委託分についても計画に基づき実施されており、活動実績は見込みにあつたものであると考える。</p>				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	OECD拠出金は、財務省など他省庁からも拠出されているが、金融庁では、新興市場国における金融分野を対象とした活動に財務省と共同で拠出している。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>財務省</td> <td></td> <td>経済協力開発機構日本基金(JVC)金融・環境・開発への拠出</td> </tr> </tbody> </table>	所管府省名		事業番号	事業名	財務省	
所管府省名	事業番号	事業名					
財務省		経済協力開発機構日本基金(JVC)金融・環境・開発への拠出					
点検・改善結果	点検結果	<p>○事業①(新興市場国の金融当局者を対象とした研修事業の実施) 平成30年度は、令和元年6月に当庁が本事業の一環としてG20財務大臣・中央銀行総裁会議の関連会合を開催することになり、当初予想していた以上に事務量が著しく増加したことから、開催準備に注力するべく研修の実施を一部見送ったため、研修参加者数が例年に比べ減少した。しかしながら、実施した2回の研修では例年同様、幅広い対象国・地域から研修生が参加していたこと、また、G20財務大臣・中央銀行総裁会議及び関連会合には新興市場国が広く参加し、関連会合の内容には技術革新や金融包摂など新興市場国に関連の深い事柄が多く含まれていたこと、以上から、平成30年度の取組みは、全体として、新興市場国の金融当局者の行政能力強化に大きく寄与したものであると考える。なお、研修業者の調達においては、一般競争入札を行った。以上から、予算は適切に執行されていると考える。</p> <p>○事業②(各国際機関(OECD、IAIS、IOSCO)の新興市場国向け技術支援のための拠出金の拠出) 国際機関へ委託して行う支援については拠出先の国際機関において、新興市場国を対象とする金融規制・監督制度の整備や金融セクター改革を支援するためのプロジェクトを実施しており、新興市場国の政策担当者の行政能力強化に資する重要な機会となっていると考えられる。特に、当庁の重点施策でもあり新興市場国の経済発展に欠かせないコーポレートガバナンス分野については、当庁による支援活動とも連携した効果的な取組みがなされている。</p> <p>○新興市場国の金融・資本市場の整備に向け、新興市場国の金融当局者の能力向上や人材育成に、今後も継続的かつ積極的に取り組む必要がある。</p>					
	改善の方向性	<p>○研修の対象国については、従来から関係を構築してきたアジア諸国に加え、その時々の日系金融機関等のニーズを踏まえ、適切に選定を行っていく。</p> <p>○また、研修生から金融庁側へ示された要望事項(研修中及び研修後アンケート)の内容も吟味しつつ、次回研修のプログラムの充実等を図り、引き続き新興市場国の金融当局者の能力向上に努める。</p> <p>○執行に当たっては、引き続き一般競争入札を実施する等、競争性の確保を図っていく。</p> <p>○国際機関へ委託して行う支援についても引き続き当庁の重点政策と対象国・地域の実情を踏まえた効果的な支援を実施していく。</p>					
外部有識者の所見							
(外部有識者点検対象外)							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	一者応礼となった契約(銀行監督者セミナーに係る運営業務ほか)については、競争性を確保するための方策について検討するなど、引き続き予算執行における経費削減に努めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
年度内に改善を検討	<p>○32年度においては、新興市場国における資本市場の育成を目的としてコーポレートガバナンスの普及・強化を一層促進すると同時に、新興市場国の金融当局者の能力開発を更に進めるべく、国際機関への拠出金の増額等により前年度比19百万の増額要求を行う。</p> <p>○研修事業については、研修生から金融庁側へ示された要望事項の内容も吟味しつつ、研修プログラムの更なる充実等を図っていく。</p> <p>○執行にあたっては、公告の時期を早める、公告の期間を長くする等の方策を行うことで競争性を高めるほか、公募に移行することも検討し予算執行における経費削減に努める。</p>						

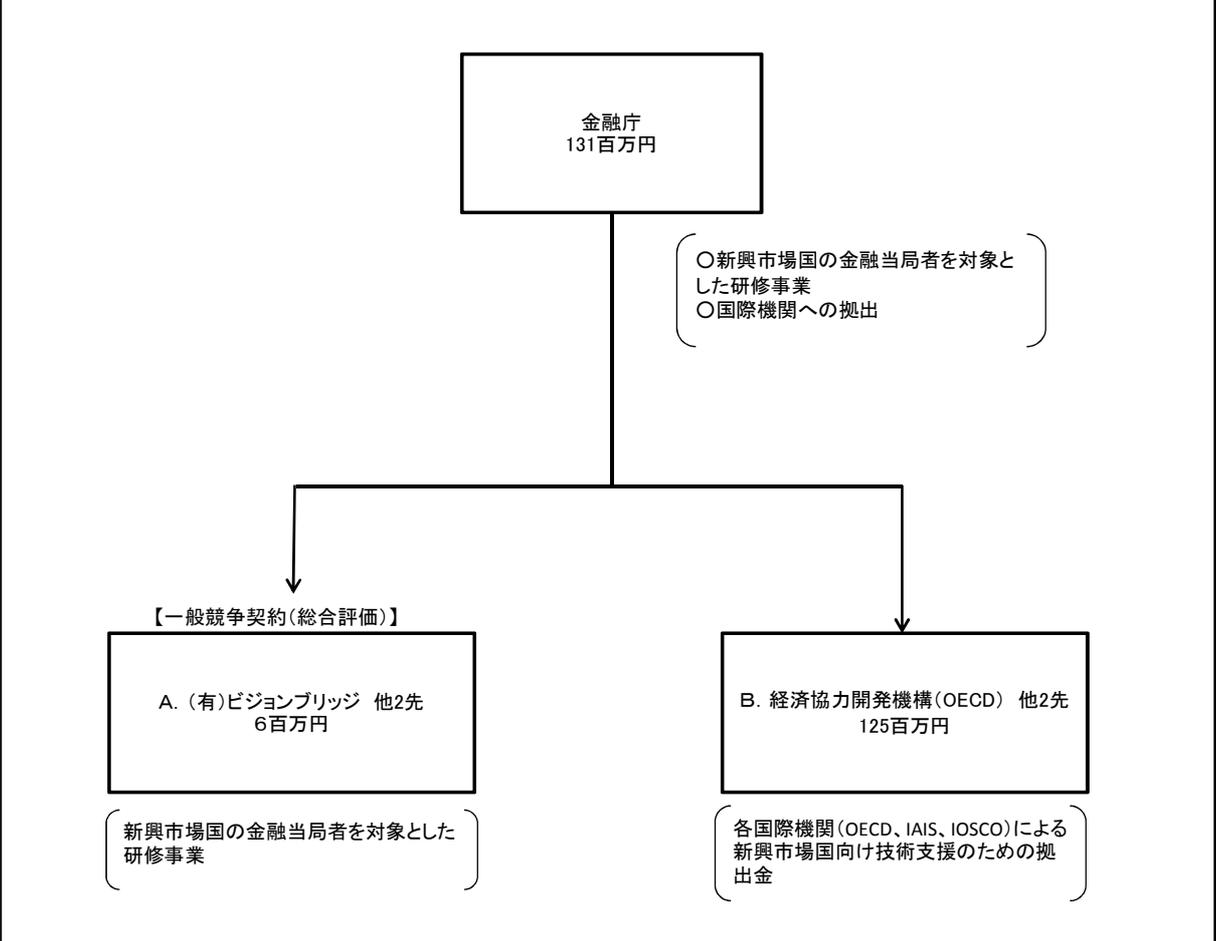
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 3	平成23年度 3	平成24年度 3	平成25年度 3
平成26年度 3	平成27年度 14	平成28年度 16	平成29年度 0017
平成30年度	金融庁 (0018)		

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.(有)ビジョンブリッジ			B.経済協力開発機構(OECD)		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
会議運営費	外国人招へい費、事務経費、人件費等	5	事業費	新興市場国向け技術支援	77
計		5	計		77

支出先上位10者リスト (注) 落札率については、同種の他の契約の予定価格を類推させる恐れがあるために記載していないものがある。

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(有)ビジョンブリッジ	3011102030410	銀行監督者セミナーに係る 運營業務	3	一般競争契約 (最低価格)	1	--	
2	(有)ビジョンブリッジ	3011102030410	保険監督者セミナーに係る 運營業務	3	一般競争契約 (最低価格)	1	--	
3	(株)アーバン・コネク ションズ	2011001000473	通訳業務	0.2	随意契約 (少額)	-	--	
4	(株)サイマル・インター ナショナル	6010001109206	通訳業務	0.1	一般競争契約 (総合評価)	2	--	
5	(株)アーバン・コネク ションズ	2011001000473	翻訳業務	0.1	一般競争契約 (最低価格)	1	--	

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	経済協力開発機構 (OECD)	-	国際機関への拠出金	77	その他	-	--	
2	保険監督者国際機 構 (IAIS)	-	国際機関への拠出金	36	その他	-	--	
3	証券監督者国際機 構 (IOSCO)	-	国際機関への拠出金	12	その他	-	--	